

もしものときのために、備えあれば憂いなし。 ナイキでは「防災オフィス」をご提案。

防災・地震対策用品

吸盤フック	444
移動防止対策用品	445
転倒防止連結バー	446
落下防止バー	446
転倒・落下防止対策用品	447~449
小型物置	450
中型物置	450
断熱物置	450
備蓄保管庫	451
蓄電池	451
メガホン（防滴型）	451
蓄光パンフレットスタンド	452
蓄光記載台	452
蓄光電話台	452
蓄光マガジンラック	452
蓄光テーブル	452
レスキューベンチ	453
防災用ヘルメット	453
高輝度・長残光蓄光式置敷マット	453
高輝度・長残光蓄光式床用ピクトサイン	453

ナイキでは快適で美しい空間づくりだけでなく、地震の際の“人命の安全確保”と“二次被害の防止”について考えた「防災オフィス」をご提案。

もしものときに役立つ防災・地震用品を用いたプランで、“備えあれば憂いなし”をかたちにします。

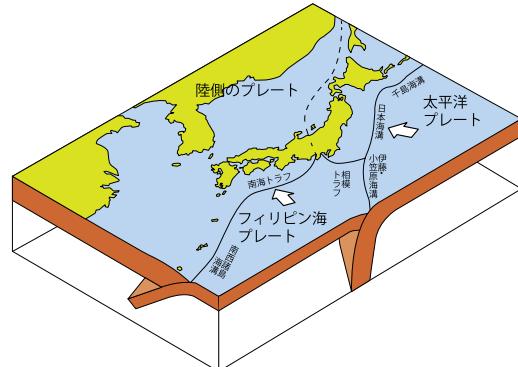


東日本大震災にて大きな被害を受けたオフィス

地震対策はなぜ必要？

「天災は忘れたころにやってくる」の言葉通り、自然災害はいつか必ず起こります。

地球の表面は十数枚のプレート（岩盤）で覆われ、各プレートは少しづつ移動しています。日本は4つのプレートがぶつかり合う場所に位置するため、世界有数の地震国といわれています。震度7クラスの巨大地震への備えは、私たちにとって避けられない大きな課題。「地震と想定外の地震災害」について考え、しっかりと地震対策を行っておくことこそが防災につながります。

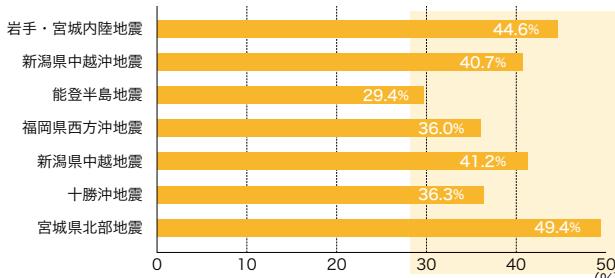


参考：地震調査研究推進本部 地震調査委員会全国地震動予測地図
2010年版 解説編

オフィスで起きた地震では、なにが危険？

家具類の転倒・落下・移動によるケガが多く、さらには出火が起こることもあります。

■近年発生した地震における家具類の転倒・落下・移動が原因のけが人の割合



参考：東京消防庁「家具類の転倒・落下・移動防止対策ハンドブック」

近年発生した地震でけがをした原因を調べてみると、約30~50%の人が家具類の転倒・落下・移動によるものでした。オフィスの場合、家具類の転倒・落下・移動は、直接当たってけがをするだけでなく、つまずいて転んだり、割れたガラスを踏んだり、避難通路をふさいだりするなど、さまざまな危険をもたらします。また、収納物が火気器具の上に落ちると火災が起きることもあり、大きな二次災害につながってしまいます。